

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

全国病児保育
協議会
広報委員会

病児保育協議会ニュース



＝今号の目次＝ 第19回研究大会・総会特集

- 1頁 協議会メール 第19回研究大会を終えて
- 2頁 シンポジウム・基調講演まとめ
シンポジウム「病児保育を語ろう」まとめ
- 3頁 特別講演まとめ
- 4頁 特別企画まとめ
- 5頁 ワークショップ報告
「ロールプレイ」
「保育実技」
- 6頁 分科会報告
「地域連携」

- 「管理・運営」
- 6頁 「看護」
- 7頁 「保育」
ポスター発表報告
「感染対策」
「管理・運営II」
調査研究委員会報告
- 8頁 第19回研究大会でのヒトコマ
- 9頁～12頁
第19回全国病児保育協議会総会議事録

協議会メール

第19回全国病児保育研究大会(千葉)を終えて

第19回全国病児保育研究大会 会頭 佐藤 好範



平成21年7月25,26日千葉県千葉市にて「第19回全国病児保育研究大会in千葉」を開催させていただきました。

833名という多くの方のご参加をいただき盛況に終わりましたことをここに報告いたします。研究大会を開催するにあたり、大変多くの方よりご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

2年前、第19回全国病児保育研究大会を千葉でというお話をいただき、準備を始めました。病児・病後児保育施設を安心して利用していただくため、利用者をはじめ保育所や周辺の医療機関からも信頼され、連携をとることが大切であると考え、また病児・病後児保育施設の中においても、医師、看護師、保育士がお互いの専門性を高め、連携することが必要であると強く感じていました。そこで千葉大会のテーマを「連携の中から明日が見える—安全で安心の病児保育を育てよう—」と決めまし

た。「連携」という言葉をキーワードにして病児保育を中から、そして外から見るシンポジウムを企画しました。絵本を通して母親と子供の心に響くお話をいただいた内海裕美先生、子どもが笑顔になるために、まず大人が笑顔にならなくてはいけないと私たちにエールをくださったカムジー先生、発達障害の子供たちとの接し方をわかりやすく教えていただいた永沢佳純先生、事故は防げるという発想の転換を与えてくださった山中龍宏先生の4名の講師の方は、実行委員会を重ねる中で、自然に、今必要な、聞きたい話としてお願いすることに決まりました。そのほか、各実行委員が知りたい、試してみたいと思っていることをできる範囲でランチョンセミナーやワークショップとして取り入れプログラムの骨組みを完成させました。もちろん全国病児保育研究大会として最も大事な研修も、協議会の研修委員会の方々のご尽力で、今までにない充実した内容のプログラムを作っていただき、多くの参加者にとって大変素晴らしい勉強ができたものと確信しております。

また、これまでであった「何でも相談」の形を変えて、施設長懇談会の時間をとりました。おりしも新型インフルエンザの流行を経験された神戸の片山キッズクリニックの片山啓先生には、お忙しい中資料も作っていただき流行時の対応などお話をいただきました。そのほか、保育所併設型施設や地方の病児保育施設の現状などについて意見交換がされ、厳しい運営の状況もお聞きすることができました。

今回の千葉大会が皆様の日ごろの病児・病後児保育の運営にとりお役に立つものであり、皆様の記憶と思い出に残っていただけたら、私たち実行委員として本当に幸せなことと思っております。改めまして参加して下さったすべての方のご協力に感謝申し上げます。実行委員の仲間や多くの方に支えられ、無事会頭という大役を果たせたという感慨にふけるとともに、東京大会へ無事バトンを渡すことができ安堵しております。また来年東京でお会いしましょう。どうぞそれまで笑顔でお元気に活躍されますことを祈念しております。

シンポジウム・基調講演まとめ

「病児保育のこれから そのめざすもの」

講師：全国病児保育協議会

顧問 帆足 英一 先生

「保育指針の改定と病児保育」

講師：厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課

保育指導専門官 天野 珠路 先生

報告者：大分こども病院キッズケアルーム

藤本 保



講師の帆足先生



講師の天野先生

千葉大会のメインテーマ「連携の中から明日が見える」を受けたシンポジウムに先だって、帆足顧問から「病児保育のこれから そのめざすもの」、天野厚生労働省保育指導専門官から「保育指針の改定と病児保育」と題して

基調講演があった。

帆足顧問の基調講演では、新たな「病児・病後児保育事業」の特徴を説明されながらも、その問題点を鋭く指摘され、憤りのこもった論評が展開された。平成20年度から厚生労働省の所管が母子保健課から保育課に移り、事業の再編とともに内容も大きく変わったこと、さらに平成21年度からはいきなり利用実績に応じた国庫補助制度に変更になったことは、国の少子化対策事業としての本事業の基本理念を覆しかねないものであ

る。

特に、保護者負担(利用料金)を事業費の半額相当と想定していて、従来2000円から4000円以上へと一挙に倍以上に値上げされることが前提になっていること、さらに疾病の季節的変動や利用キャンセルの多さなど本事業の特殊性を全く無視した利用実績重視の補助制度は、病児・病後児保育事業が子育て支援のセーフティ・ネットとしての制度であるとしてきた歴史とその概念自体を無視したものであり、破滅の道に進みかねないと強く警鐘を鳴らされた。

さらに、職員の配置基準、医師管理料など安全管理に関する考え方が不明瞭なことも大きな問題であるとされた。抄録に詳しく説明があるので、会員諸氏はしっかりと眼を通していただきたい。

今後の協議会における課題、そして病児保育事業所が「病児の子育て支援ステーション」として機能を発展させるべきと示されたビジョンは、多くの課題を抱えながらも、究極の育児支援として病児

保育に携わっている者に対して、一層モチベーションが高まるものと期待される。

天野専門官の基調講演では、平成21年4月に施行された新たな保育所保育指針について解説があり、特に第5章の「健康および安全」について詳細に説明され、保育所における看護師や保育士の研修および組織の実施体制整備のみならず、家庭や保健所・医療機関との連携が重要であると強調された。

その中には、病児・病後児保育事業を実施する場合の配慮として病児保育の記述もみられるが、病児保育室の保育士は新しい保育指針を活用しながら、保育看護としての質の向上につとめていただきたいと思われる。

最後に病児・病後児保育事業について変更点の説明があり、補助方式が利用実績払いだけでなく基本部分を設けていくこと、22年度の予算額は38億程度まで上がる(平成21年度予算額は31億7千5百万円)と述べられた。しかし、事前に提示されている基本分は150万円であり、これでは到底安定した職員雇用もできず、いったい国は今後病児保育事業を目標に向かって増やすつもりなのか大いに疑問である。

天野専門官は保育士、幼稚園教諭として勤務の経験があり、教職を経て現職に入られた貴重な方であり、私たちの絶叫に近い要望(願い)が、子どもと保護者のためのものであることを理解してくださっていると信じている。

シンポジウム・「病児保育を語ろう」まとめ

「病児保育を語ろう」

報告者：さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ

佐藤 好範

第19回全国病児保育研究大会 in 千葉のメインテーマであります「連携の中から明日が見える」のために企画したシンポジウムでした。病児・病後児保育にかかわる色々な方のお声を聞き、現在の

病児・病後児保育に対する評価、必要性を明らかにし、現状の問題点そして将来へ向けての課題について討論することを目的としました。

千葉市ポピンズルームの施設長

である原木真名先生からは「子どもたちの笑顔から日々癒され、小児科医として学ぶことの多い充実した施設運営をしている」お話があり、千葉市に病児保育室を作る会代表の大岡友子様からは4名で会を発足し、千葉市に7か所の病児保育室ができるまでの会の活動と、今後の育児休暇の制度が普及しても、子どもの病気に対しては病児保育施設が必要という保護者の意見を紹介していただきました。

病児保育室を作る会から船橋市議会議員に立候補し活動されている小森雅子様からは、市民の声を政策に反映させ行政を動かした経験をお話していただきました。

利用者を代表して2名の方からは、「仕事を持っている女性として、乳幼児期の子育てに病児保育室が不可欠であり、子どもの病気に対しても病児保育を信頼し、安心して預けられた」というお話をいただきました。

最後に千葉市多部田保育所所長の式田静子様からは、「保育中の体調不良児は、人の出入りの多い事務室などで、保護者のお迎えを待つ間、子どもを見ているのが現状で大変心配をしている。病児保育施設については、知名度も低く、遠方であったり、定員や時間の制限があったり利用し辛い点もあり、今後連携を深める必要を感じる」というお話でした。

シンポジウムのIで基調講演があり、協議会と国の意見交換がされましたが、II部でどのような現場の声を国に届けることも非常

に重要なことと考えました。私たち病児保育施設も一般市民の声、利用者の声の代弁者となって、行政や周辺の関係者と話をしてきたつもりですが、改めて利用者や保育所職員の生の声と一緒に病児・病後児保育の今後を考え、発展させていかなければならないのではないのでしょうか。

最後に、基調講演をしていただいた厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育専門官の天野珠路様よりいただいた、今回のシンポジウムのご感想を下記に引用させていただきます。

“病児保育については私も個人的に思い入れがあります。そして、この間、心ある医師の方々の相当なご努力により、ここまで発展し、確実に子どもにとって保護者にとってなくてはならないものとなっていることに感慨さえ覚えまします。保育指針でうたっている「子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場」、病児保育室を訪れると本当にそうだなあと思うのです。制度的なことは悩ま



しいのですが、全体の枠組みや社会保障の流れのなかで変えざるを得ないところがあり、皆様には本当にご迷惑をおかけしてしまうと心苦しいです。わずかの時間でしたが、佐藤先生の講演や先生方の発表などを通し、最も弱き者、幼き者を大切にする先生方の心意気と医師としての使命感を感じることができた病児保育研究大会でした。ありがとうございました。

病児・病後児保育を発展させる原動力を得るためには、われわれ協議会メンバーだけではなく、利用者、保育所職員、医療機関関係者、厚生労働省担当所管、市町村すべての連携が必要であることを感じました。

特別講演まとめ

「絵本の中の子どもたち」

講師：吉村小児科

医師 内海 裕美 先生

報告者：病児保育室「森のくまさん家」

松田 幸久



講師の内海先生

科医の中だけでなく病児保育に関わる方々にも有名である。今回、特別講演の座長の機会を頂き、内海先生の講演を間近に聞けることを楽しみにしていた。

講演では、絵本を紹介するだけでなく、児童心理学やメディアの話などに関連づけて、とても内容の豊富な講演であった。絵本は、3～4か月の赤ちゃんでもちゃんと反応する。ロングセラーであ

る「いないいないばあ」はこの時期からの絵本だ。この頃は、ボールビの愛着形成過程の第一段階で、子どもたちの心の発達において大変重要な時期でもある。

そのような時に、テレビやビデオに子育てをさせたり、授乳しながら携帯でメールする母親が増えているという。この時期こそ、ちゃんとかかわり、絵本を読んであげることが大切だとの話であった。

そうしながら、赤ちゃんは、お母さんに、家族に愛され、自分に関わってくれた人たちにいろんな反応を示し、特定の人への愛着が確立されていく。大好きな特定の人を描かれている絵本は、ほとんどが「おかあさん」であるが、1、2

冊は「おとうさん」の絵本も紹介された。これは、内海先生の男性の参加者への配慮かなと思った。

「いまがたのしいもん」は、幼児期の話である。いろんなことができて、大人にならなくなったっていいと思うわたし（主人公の女の子）に対してのお母さんの一言は、「おかあさんはね、おおきくなって、あなたのおかあさんになったのよ。おとなっていいでしょう。」と言っている。子どもの素敵ところは認め、成長して大人になることもすばらしいよと話しているのだ。まさに、タイトルどおり子どもにも大人にも「いまがたのしいもん」である。

また、兄弟の絵本では、「ぼく



がおっぱいをきれいなわけ」が紹介されたが、タイトルがただで、会場は笑い声があがった。おにちゃんが、おっぱいの嫌いなわけを言うたびに、会場からの笑い声もしいに大きくなった。特に、おとうさんのおっぱいが嫌いなわけの時の笑い声が一番大きかったような気がする。おかあさんに抱っこされながら「だから、おっぱいが嫌いだ！」と強がるおにちゃんのページで終わった

時、会場から拍手があった。「ラブ・ユー・フォーエバー」は有名な絵本だが、幼児期、学童期、青年期、そして大人と、絵本の中にエリクソンの提唱する心理社会的発達段階を見ることができる。そして、親から、子へ、そしてその子の子へと、愛情のバトンが受け渡されていく。

あっという間の1時間であった。個人的には、林明子・筒見頼子のコンビや、中川ひろたかの親

父ギャグ的な絵本の紹介が今回なかったのは残念であるが、明日からの現場に生かすことのできる話や絵本がたくさん網羅されていた講演であった。会場には、わざわざこの講演を聴くために帰る時間を調整された千葉大小児科の下条直樹准教授がいらっしやたが、始終子どものような笑顔であった。この講演が、病児保育だけでなく、病院でも生かされる予感がした。

特別企画まとめ

♪リズム遊びで 楽しく心を 鍛えよう！！

講師：リズム音楽研究所

主宰 カムジー 先生

報告者：さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ

佐藤 里美



講師のカムジー先生

「はい、びっくりした人！あやしいと思う人！」とフライパンを叩きながら登場したカムジー先生に、会場の皆さんからは、早くも笑い拍手が起こっていました。カムジー先生こと本名加村柁弦さんは、ジャズベシスト歴41年のミュージシャンです。本来は全国での演奏活動のほか、作詞、作曲、アイドルグループの育成もされていましたが、20年余り前におこなった小学校の訪問コンサートをきっかけに、現在は子どもたちに笑顔、元気をプレゼントする活動を中心に行っています。

おかあさんに連れられ小児科を訪れた子どもに、いきなり「今日はどうしたの？」と聞いても、言葉は出てこない。「先生が聞いているでしょ、ちゃんとしなさい！」と急がせるおかあさんの前ではなおさらしゃべれない。その場の「空気」が大切、と先生はおっしゃいます。こわくない空気、心を開きたくなる空気が大切。これにはまず「笑顔」。笑顔はやさしい空気をもたらす、子どもの心に伝わります。「えー、ほんと？」と思う

人は、笑顔、空気、楽しい、と思う気持ちで接するだけで何かが変わる、と熱く語られました。

先生が出演されたテレビ番組「リズム遊び教室」の様子を伝える映像には、この日のカムジー先生とはまた違った姿がありました。大勢の子どもたちがはしゃぐ中に、様子をうかがうだけで、遊びに入れない男の子。そんなわが子の姿にあせりを感じるおかあさん。そんなおかあさんの気持ちを察し、「急がないで、じっと待つてあげよう。」と先生はやさしく語りかけます。時間が経つと子どもは笑顔で、気に入った楽器を手に遊び出しました。本当だ！待つこと、笑顔、空気・・・こういうことかな、と感じたのは私だけではないと思います。

この日会場は一時、ニューヨークのジャズクラブに変わりました。カムジー先生のベース、ベースから醸し出される空気、「イメージ、イメージ・・・」と先生がささやきます。ああもう少し、このベース音、空気味わっていたいなあ、なんて思いました。でも次の瞬間は、「ほ、は」と現実に戻り、カムジー先生らしく、♪もったいない～もったいない♪のリズム体操が始まりました。会場が、なごやかな笑い歓声に包まれ、

これが、カムジー先生の言う「空気、声、笑顔、瞳、仕種、言葉・・・」楽しいって素晴らしい！と思いました。

キラキラ瞳、待つてあげることが大事、この言葉をみんなに伝え、会場を後にされました。参加者からは、「新鮮な気持ちで心に響きました。」「笑顔の大切さを改めて感じました。」「楽しすぎて泣きそうになりました。」「カムジー先生、ありがとう。」など多くの感想が寄せられました。

大会のあと、カムジー先生から、「病児保育室の先生方はすごい、一生懸命が伝わってきた、こちらこそありがとう。」とメッセージをいただいています。

第19回全国病児保育研究大会の最後のプログラムにふさわしく、明日からの元気、活力を私たちにプレゼントしてくれたカムジー先生でした。



ワークショップ報告

■ ワークショップ2「ロールプレイ」 ■

あなたの声が聴きたくて
— (ロールプレイにより) 保護者へのカウンセリング的対応を学ぶ—

報告者：かわむら小児科 病児保育室モーモーハウス

河村 一郎

病(後)児保育室では、毎日いろいろな保護者の方に対応しておられることでしょう。育児に悩んでいる保護者から相談を受けたり、こちらのアドバイスがうまく伝わらずに困ったことなどもあるかと思います。そんな時、上手に話を聴けたり、話を伝えられたりできれば、よりよい子育て支援にもつながっていくかと思います。

今回のワークショップ(以下WS)は、ロールプレイを通じて、「聴く」、つまり「相手の心に少し寄り添った気持ちで話を聞く」というスキル(カウンセリングスキル)を身につける、患者役を演じることにより患者さんの気持ちを理解(共感的理解)するということを目的として開かせて頂きました。参加者は28名(保育士18名、看護師8名、その他2名)でした。

場面設定は「保育園に入園した

のに、風邪をひいて休んでばかりの子に悩む母親」「1歳になるのをめどに仕事に出ようかどうしようか悩んでいる母親」の2場面とし、1場面5分間で2組ずつ演じていただきました。皆さんとても初めてとは思えないほど上手に演じられました。

録画したロールプレイを見た後にコメンテーターの方にコメントしていただきました。「話を要約整理しながら質問していくとよい」「主語が誰なのかしっかり聴いていくとよい」などのコメントを頂きました。

今まで日本外来小児科学会で医師、看護師を対象にこのようなWSを4回ほど開かせて頂きましたが、今までの中で一番うまく話を聴くことができていたように思います。日頃から保育士さんはよく保護者の話を聴いてあげて



いる、自然とそのスキルが身に付いているのではないかと感じました。

WS後のアンケートでは、回答数26名中全員、参加してよかった、今後の保育に役立つと思うと答えられ、23名が来年もあつたら参加したいという結果で、ビデオでのふり返りがとても役立ったというコメントも頂きました。このWSが今後の保育に少しでも役立つことができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、このWSでコメンテーターをお引き受けいただいた谷田征子先生、内海裕美先生、高田修先生、一緒に進行役を務めていただいた佐久間秀人先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。

■ ワークショップ3・4「保育実技」 ■

座長：さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ

佐藤 里美

保育実技1、2は、事前登録制で各回定員30名を2回の予定でしたが、登録開始から間もなく予約がいっぱいになってしまい、講師の先生のご配慮もあり、定員50名を2回、計100名の参加者で予定されました。

各保育施設では毎日楽しい時間を作りだすため、体調に合わせた



工夫や、異年齢の集まりでの工夫、人数に合わせた工夫など、さまざまな遊びを工夫されていますが、利用人数が少ない場合や隔離室の連日利用、年齢の大きい子どもへの遊びの提供など悩みの種は尽きません。

今回の保育実技は、そんな時だからできる、そんな時しかできない「実験遊び」を中心に、幼稚園・保育園の現場で活躍されている先生から、遊びの提供をしていただきました。

今回のメインは、おなじみの「スライム作り」ですが、基本のスライム作りから、砂鉄を使った「動くスライム」、食塩を使った「スーパーボールスライム」と、まさに科学を取り入れた応用編を紹介し



ていただきました。

参加者に好評だったのは、片栗粉を使ったスライム作りでした。通常のスライムは「ホウ砂」を使うため、取り扱いに不安を感じる人も、片栗粉スライムは安全かつ簡単にできるため、早速取り入れてみようという声も多数聞かれました。また、スライムをファスナー付きビニール袋などに入れ冷却材にする方法もあり、病児保育室では有用かもしれません。

その他紫キャベツを使った「魔

法の水」では、好きな溶液を使い、色の変化を楽しむ実験でした。色水をしっかり出すためには、キャベツを細かくちぎる必要があります、その作業には思った以上に時間がか

かっていましたが、皆さん真剣に取り組まれていました。

当日の座席はくじ引きで、参加者の交流も深まり、「大きい子向けの遊びが役に立った。」「明

日からの遊びの引き出しが増えた。」「身近な材料でさっそくできそう。」「楽しかった。」「(多数)など有意義な時間を過ごしていただけたようでした。

分科会報告

分科会Ⅰ「地域連携」

座長：NPO 法人チャイルドケアサポートみるく

永野 和子

分科会Ⅰは、地域連携ということで、各施設が地域と連携をとりながら進められている取り組みが発表されました。

西岡小児科医院からの報告では、病児保育室のスタッフも、保育看護のみに目を向けるのではなく、メンタルヘルスも含めて、社会全体で子育て支援をする、そして社会全体で子どもを育てる視点を持つということの大切さを感じました。

すずらん病児保育園からは、保護者の働き方が多様化している

今、ファミリーサポート制度や国の病児預かり緊急対応事業制度と、病児保育室との連携も必要不可欠になっていくのではないかと考えました。

大阪の浜本芳彦先生からは、医療機関との連携についてのとてもアンケート結果をご報告いただきました。病児保育は、医師会が理解しサポートして頂けることが理想であるということを感じました。

また、同じ大阪のリトルベアからは、病児保育施設へのアン

ケート調査が報告され、地域格差があるという点と今年度の交付金のあり方について、考えさせられました。

最後に、中野こども病院から、病児保育の知名度をあげるための取り組みについての発表がなされ、今後の参考になるものでありました。

仕事を持って、子育てをしている人たちは、地域での子育て支援に、時間の余裕のなさから、求めたくても求められない環境にあることから、病児保育室が橋渡しができるように考えながら、地域の子どもと保護者に関わっていくことが大切であると思える分科会でした。

分科会Ⅱ「管理・運営」

座長：八尾徳州会総合病院小児科

神原 雪子

このセッションは4つの演題の発表がありました。それぞれ特徴があり、工夫されている様子がよくわかりました。

1) では病児保育室の保育士が受付業務も担当したことで、普段関わりがない患者と接することでみえなかったことがみえて、病児

保育にもいかされているとの内容でした。

2) では岐阜県における病児保育実施施設にアンケートをとり厚労省の補助金制度の改正により山間部の小規模施設が運営が厳しくなるなど貴重な結果を報告していただき、

3) では新潟県にある自施設でアンケートを実施し、広報の仕方や利用について詳細に報告していただきました。

4) では病児保育のあり方を自施設で検討し、こどもも利用する親も大切に育てていくために職員として共有できる憲章を作られ披露していただきました。

どれもすばらしい内容で討論も活発に行われ実りあるセッションとなりました。

分科会Ⅲ「看護」

座長：あきやま子どもクリニック病後児保育室「あきやまルーム」

秋山 千枝子

最初の「0111～発症までの経緯と二次感染対策～」は、日常の徹底した感染予防対策が感染拡大を阻止できたという、病児保育室のあるべき理想的な業務の報告でした。日々の感染症対策を怠らないようにと気が引き締まる思いです。2題目の「単独型施設における特性？入院症例からみえてきた医師や保護者との連携？」では、病児保育室において子どもの病状

を丁寧に観察し、保護者と医師を上手に橋渡しされている役割が報告されました。単独型施設の方向性の課題はありましたが、今回の連携は保護者と医師からの信頼を積み重ねてきた保育室のすばらしい成果です。「病児保育に勤務して得たもの」では、保育と看護の共通部分を再確認したチームで行う病児保育が、家庭への指導・支援の場になりうるという病児保育

の方向性を示唆されました。病児保育は子育て支援としての役割をしっかりと意識して担っていかねばならないと思います。以上、3題のとても有意義な内容の分科会でした。



■ 分科会Ⅳ「保育」 ■

座長：帝京平成大学 現代ライフ学部

田邊 ますみ

病児、病後児保育は、毎日未知なる子どもと出会い、関係を作っていく。しかも病気の回復を考えながら、その日一日を大事に子どもと過ごす保育である。

今回4題の発表があり、保育内容を語る場があったことは、大変うれしく思った。病児保育室は、究極のこども支援の場である。現在まで場を作る、ハード面に注目

されていたが、いよいよソフト面に踏み込むことができる。

発表の1題目は、病児だからとあきらめてしまいがちな運動会行事を取り入れる工夫であった。「玉入れ」

2題目は、保育看護のチームワーク作りと、金沢市の病児保育5施設が連携している様子を報告された。

3題目と4題目は、障がい児の受け入れである。医療ケアが必要な児を連携して保育する実態と、大田ステージ分類を指標に生活援助を組み立てた例を発表された。

即日的で予め計画立てることが難しい病児保育である。対象の理解のために知識を得るため連携していきたい。日々の業務は忙しいが、失敗から学び積み重ねその学びを発表してほしい。保育実践が共有され、子どもも親も我々も少しでも満足いく保育を目指したいと願った。

▶▶▶▶▶ **ポスター発表報告** ◀◀◀◀◀

■ ポスター発表3「感染症対策」 ■

座長：東小岩わんぱくクリニック 病児保育室東小岩わんぱく

小島 博之

会場に溢れるほどの聴講者に来ていただき、各演者は十分に準備された発表をされ、その後は活発な質疑応答となりました。

紙面の関係上各演題へのコメントは差し控えますが、それぞれ興味深い内容を含み、私自身大変勉強になりました。来場された方も、

これまで経験していない感染症に対する対策を具体的に想定できたり、新しいアイデアを試そうと検討したり、レベルの高い感染防御対策の実際を知ることで明日からの保育に良い刺激を受けたのではないのでしょうか。

大変多くの方に集まっていた

いたため、後ろの方は見にくかったのではないかと思います。ポスター発表は前後で内容をゆっくりチェックできるし、大きな会場では質問しにくいような細かいことも質問しやすいのが良いですね。質問時間がもう少し欲しかったです。時間の関係上難しいでしょう。

最後に、スムーズな進行をしていただいたタイムキーパーの方に感謝いたします。

■ ポスター発表4「管理・運営Ⅱ」 ■

座長：東小岩わんぱくクリニック 病児保育室東小岩わんぱく

小島 博之

ポスター発表4「管理・運営」の1題目は、「0歳児の利用者のまとめ」というテーマでした。

0歳児の利用者が、10年間の統計と1年間の統計とほぼ同じで、全体の約1割を占めているという結果が出ていました。

2題目は「インターネットを利用した病児保育24時間システム

の実際」というテーマでした。隔離が必要な子どもが重なってしまった場合どうするのかという質問が出ましたが、4名定員で4部屋あるので、対処できるとのことでした。

3題目「利用者の増加に伴う作業の効率化について」と4題目「インシデントの事例とその

対策」は持ち物管理のための工夫など徹底して行われていました。

開設間もない施設でもいろいろな工夫がされていましたが、それは研修会に参加することで、他施設の情報を得られることが大きな力になっているのだと思いました。

発表する側、聞く側の意見交換がしやすく、お互いの得るものが多いポスター発表は研修会の中で、今後も是非続けてほしいプログラムだと感じました。

▶▶▶▶▶ **調査研究委員会報告** ◀◀◀◀◀

「インシデント管理システム」に関する研究報告

全国病児保育協議会調査研究委員 深谷 憲一

今年の調研報告は例年の研修会形式でなく、PCソフトウェア「インシデント管理システム」に関する研究報告と題して、リスクマネジメント総論の説明を含めて発表させていただきました。昨年11

月から6か月間、全国11施設を対象に行ってきた調査の結果、病児保育におけるインシデントの発生パターンや、今後考えられる対策について方向性を見出すことができたことを報告させていただきました

ました。また、今年の3月に「インシデント管理システム」がリスクマネジメントにおける協議会推薦のツールとして承認を受けたこともあり、今後の普及によるリスクマネジメントの標準化、ひいては安全な病児保育の実現が期待されました。報告後のアンケート結果を一部ご紹介すると、「システ

ムの利用目的が明確になったことが有意義だった」「システム標準化のメリットが理解できた」など次のステップに繋がる意見もあれば、「パソコンへの打ち込みが問題」「必要であることは理解するが実行に移すにはスタッフとの話し合いが必要」など足踏みをして

いるように思われる意見もありました。今後の研修の方向性としては、スキル、ニーズに応じて段階的にグループ分けして行うことも検討すべきと思われました。今回の発表の内容について、発表のパワーポイント原稿、報告書(中間、最終)、システムのマニユア

ル(リスクマネジメント総論を含む)を調研のホームページでダウンロードできるようにしてありますのでご参照いただけたら幸いです(<http://www008.upp.so-net.ne.jp/sympathy/index.html>、パスワード:chouken)。

第19回研究大会でのヒトコマ



第19回全国病児保育協議会総会議事録

日時：平成21年7月25日(土)17:00～17:45

場所：O V T A海外職業訓練協会

一、会長挨拶(木野稔会長より)

一、仮議長および議事録署名人選出

仮議長として佐藤好範会頭、および議事録署名人として大岡友子先生と清水精子先生を推薦。

◆拍手で承認された。

一、仮議長による議長選出

会場より立候補者がおらず、今野 貞夫先生を推薦。

◆拍手で承認された。

一、木野運営委員長より総会成立の説明

現在の加盟施設は420施設。総会に参加する施設は80施設、委任状を提出した施設は222施設、計302施設になる。これは全施設数の過半数を超えており、総会は成立する。

一、議事

(1) 第1号議案 平成20年度事業報告

運営委員会(木野稔委員長より)

- ・第18回全国病児保育研究大会を開催した(会頭 熱田 裕)
- ・平成20年7月19日(土) 運営委員会(四日市市文化会館)
- ・平成20年7月19日(土) 常任協議委員会()
- ・平成20年9月21日(日) 常任協議委員会(東京国際フォーラム)
- ・平成21年3月20日(金祝) 常任協議委員会(八重洲ダイビル)

研修委員会(南武嗣委員長より)

- ・第1回 研修委員会 平成20年7月19日(四日市市) 三重大会の研修部門の進行・記録、アンケートなど
- ・第2回 研修委員会

- 平成20年9月21日(東京) 三重大会の反省と千葉大会へ向けての準備
- ・第3回 研修委員会 平成21年3月20日(東京) 千葉大会へ向けて事例で学ぶ基礎研修へ具体的な計画 症例問題と参加型の仕組みの検討

調査研究委員会(池田奈緒子委員長より)

- (1) 委員会開催
 - 第1回調査研究委員会(平成20年7月19日) 議事：①第18回研究大会における調査研究委員会研修会について シュミレーションと役割分担等 実態調査にあたり、回収方法の検討、各支部長への依頼事項 インシデントレポートシステムの使用希望者への対応について
 - 第2回調査研究委員会(平成20年9月21日) 議事：①大規模施設緊急調査結果 全国実態調査について往復ハガキでの意思確認・その後調査 インシデントレポートシステムのパイロット調査の検討
 - 第3回調査研究委員会(平成21年3月10日) 議事：①実態調査データの取扱い インシデント管理システム開発の経緯確認、今後の運用方法について
- (2) 調査 全国病児保育協議会全加盟施設の実態調査
- (3) 研究事業 病(後)児保育リスクマネジメントパイロット調査 インシデントレポートシステムの標準化に向けて、ソフトウェア利用の是非を検討、パイロット施設での仮運用

広報委員会(神原雪子委員長より)

- ①病児保育ニュース発行(4回)各施設紹介、支部研修会紹介など



- ②ホームページ関連リニューアルをおこなった
月1回を目途に更新
病児保育ニュース(バックナンバー)、厚生労働省の通達などの情報を掲載
- ③研究大会での広報の部屋を開設:病児保育についてマスコミでの紹介記事(テレビ・新聞・雑誌など)を展示、各施設のパンフレットなどの紹介
- ④日本小児科学会にて協議会として展示を行った
保育学会でも展示を行う予定
- ⑤委員会の開催
平成20年7月19日 三重
平成21年1月10日~11日 京都
- ⑥機関誌発行にむけての編集委員会準備委員会として活動

平成20年度年会費納入状況・マニュアル販売状況(木野稔委員長より)

入会金196,000円(入会施設19施設・準会員3名)、事業年会費8,617,000円(378施設・準会員25名)、賛助会費380,000円の納入があった。年会費は平成19年度が18施設、平成20年度が12施設未納となっている。必携・新病児保育マニュアルの売上冊数は655冊、10年のあゆみの売上冊数は48冊であった。

(2)第2号議案 平成20年度決算報告(木野稔運営委員長より)

平成20年度決算について 予算対比増減に対する説明

収入の部については、予算作成時の予測よりマニュアル・テキスト等の販売が好調だったこと及び故野沢良美先生のご遺志による小川昭子現野沢医院院長からのご寄付100万円等により、収入合計は当初予算を約180万円上回る23,651,344円となった。ご寄付については、野沢先生のご遺志を受け、お名前が残る形にして、20周年記念事業で使わせて頂く予定である。支出の部の合計は、機関紙発行準備費が約130万円、支部合同研修会補助費が約46万円、それぞれ予算を下回ったこと等もあり、予算を約270万円超る10,975,668円となった。よって繰越金は当初予算を約450万円上回る12,675,676円となった。

平成20年度決算報告

11ページに掲載の決算報告を参照

監査報告(二宮剛美監事より)

会計帳簿および関係書類を監査した結果、正確であることを認め、収入・支出および決算処理、平成20年度事業は適正に行われていることを証明いたします。



◆第1号議案の平成20年度事業報告ならびに第2号議案の平成20年度決算報告が、拍手で承認された。

(3)第3号議案 平成21年度事業計画案

運営委員会(木野運営委員長より)

第19回全国病児保育研究大会を開催する

(会頭 佐藤好範)

平成21年7月25日~26日

(OVTA 海外職業訓練協会 千葉市)

20周年記念事業として下記プロジェクトを行う

- ・一般社団法人化を目指す
- ・記念式典を開催する(会員施設職員永年勤続等表彰を行う)
- ・機関紙「病児保育研究」を創刊する
- ・記念誌「20年のあゆみ」を発行準備する
- ・自己評価基準を見直し、協議会認証制度を目指す

インシデント管理システムの運用および会員施設への普及

<運営委員会>

1. 20周年記念事業についてチームを編成して検討する

2. 支部会組織の充実と支部活動の活性化について検討する

平成21年6月28日(日)

拡大運営委員会(東京)

平成21年7月24日(金)

常任協議員会(ホテルスプリングス幕張)

平成21年11月または12月(予定)

運営委員会

平成22年2月または3月(予定)

常任協議員会

研修委員会(南 武嗣委員長より)

<12ページに続く>

全国病児保育協議会 平成20年度決算報告

《収入の部》

	20年度予算案	20年度決算額	予算対比増減
前年度繰越金	11,071,663	11,071,663	
事業年会費	8,500,000	8,617,000	117,000
賛助会費	500,000	380,000	-120,000
入会金	300,000	196,000	-104,000
マニュアル・テキスト等販売代金	1,500,000	2,385,405	885,405
雑収入	1,000	1,001,276	1,000,276
合 計	21,872,663	23,651,344	

《支出の部》

	20年度予算案	20年度決算額	予算対比増減	
事業費関係	研究大会補助金	2,000,000	2,000,000	0
	次期大会準備金			0
	調査研究委員会費	700,000	700,000	0
	広報委員会費	500,000	500,000	0
	研修委員会費	500,000	500,000	0
	運営委員会費	350,000	0	-350,000
	常任協議員会等会議費	1,500,000	1,652,809	152,809
	機関紙発行準備費	1,500,000	203,900	-1,296,100
事務費関係	人件費	360,000	386,000	26,000
	旅費	600,000	164,290	-435,710
	消耗品費	80,000	25,569	-54,431
	印刷費	3,500,000	3,352,215	-147,785
	通信費	300,000	131,550	-168,450
	ホームページ維持管理費	300,000	300,000	
	雑費	30,000	58,915	28,915
支部合同研修会補助費	1,000,000	540,420	-459,580	
予備費	500,000	460,000	-40,000	
合 計	13,720,000	10,975,668	-2,744,332	
繰 越	8,152,663	12,675,676		

全国病児保育協議会 平成21年度予算案

《収入の部》

	20年度決算額	21年度予算案
前年度繰越金	11,071,663	12,675,676
事業年会費	8,617,000	8,500,000
賛助会費	380,000	500,000
入会金	196,000	300,000
マニュアル・テキスト等販売代金	2,385,405	2,000,000
雑収入	1,001,276	1,000
合 計	23,651,344	23,976,676

《支出の部》

	20年度決算額	21年度予算案	
事業費関係	研究大会補助金	2,000,000	2,000,000
	記念大会準備金		1,000,000
	調査研究委員会費	700,000	700,000
	広報委員会費	500,000	500,000
	研修委員会費	500,000	500,000
	運営委員会費	0	350,000
	常任協議員会等会議費	1,652,809	1,500,000
	機関紙編集委員会		1,500,000
	機関紙発行準備費	203,900	300,000
	インシデント管理ソフト購入費		2,000,000
事務費関係	人件費	386,000	500,000
	旅費	164,290	300,000
	消耗品費	25,569	80,000
	印刷費	3,352,215	4,000,000
	通信費	131,550	200,000
	ホームページ維持管理費	300,000	300,000
	雑費	58,915	30,000
支部合同研修補助費	540,420	1,000,000	
予備費	460,000	1,000,000	
合 計	10,975,668	17,760,000	
繰 越	12,675,676	6,216,676	

<10ページより>

第1回 研修委員会 平成21年7月25日(千葉)
千葉大会の研修部門の進行・記録、アンケート調査など

会議予定

平成21年9月ごろ 第2回 研修委員会
千葉大会の反省、研修プログラム・テキスト、記録集の検討

東京大会へ向けての計画
基礎研修の今後のあり方など

調査研究委員会(池田奈緒子委員長より)

(1) 委員会開催

第1回調査研究委員会(平成21年7月25日)
議事:①第19回研究大会におけるデモンストレーションの確認

②インシデントレポートシステムパイロット施設の経過報告

③実態調査の途中経過、結果報告

第2回調査研究委員会(秋、未定)

議事:①インシデントレポートシステムの全施設展開について

②実態調査の最終集計

(2) 調査

I. 平成20年度全加盟施設実態調査

(3) 研究事業

I. インシデント管理システムの標準化、運用、集積、分析

インシデントレポートシステムの標準化に向けて、コンピュータソフトウェア利用の是非を検討、パイロット施設での仮運用

広報委員会(神原雪子委員長より)

①病児保育ニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号)

8月(総会特集号)を含む年5回予定

②HPの拡充

関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取組の紹介

③メルマガ配信

④広報関連資料の整備

⑤広報委員会開催

平成21年7月25日 千葉

平成22年1月 予定

⑥各学会での発表(渉外的広報)

日本小児科学会、保育学会などで発表

⑦研究大会の広報を保育看護の学会誌雑誌へ掲載

⑧企業など関連ある事業への広報を考慮中

※機関誌発行については編集委員会を新たに組織し、そちらへ移行

機関紙編集委員会(神原雪子委員長より)

機関紙創刊に向けて編集作業を進める

(4) 第4号議案 平成21年度予算案(木野 稔
運営委員長より)

平成21年度予算案について

収入の部は事業年会費8,500,000円、賛助会費500,000円、入会金300,000円、マニュアル・テキスト等販売代金2,000,000円、雑収入1000円(これは主に銀行利息です)、合計23,976,676円という予算にしております。支出の部は、記念大会補助金として研究大会補助金とは別項目で100万円計上しております。また機関紙編集委員会を新規に立ち上げるための会議費として30万円計上しております。インシデント管理システム購入代として200万円計上、その他20周年記念プロジェクト関係費用を考慮して予備費を50万円増額して100万円としております。支出合計は17,760,000円となり、繰越は6,216,676円です。

平成21年度予算案

11ページに掲載の予算案を参照

◆第3号議案の平成21年度事業計画案および第4号議案の平成21年度予算案について、拍手で承認された。

第20回 記念東京大会について帆足 英一会頭より説明

一、閉会挨拶(木野会長)

以上

お詫びとお知らせ

病児保育ニュース担当者の手違いで教育講演とワークショップ1のまとめにつきましては、次号の病児保育ニュース53号の掲載となります。関係各位の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

全国病児保育協議会事務局

〒535-0022 住所:大阪市旭区新森4-13-17 中野こども病院気付

担当: 藪田・堀込 電話: 06-6952-4778 FAX: 06-6954-8621